



富士見

富士見小学校校長

共に学び 共に育つ ～相手を尊重する言葉を通して～



2月3日の節分を境に、暦の上では春がやってきました。とはいえ、2月8日、市内に大雪警報が発令し、15 cm以上の雪が積もりました。寒い一日でしたが、なかなか見ることのできない冬景色を目にすることができました。

翌日（2月9日）の登校に際しては、歩道の凍結や低気温など、子供たちの安全面を考え2時間遅れとさせていただきました。急な変更にもかかわらず、ご対応くださいましたこと感謝申し上げます。

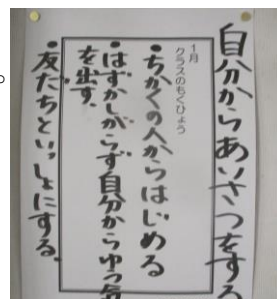
寒い日が続いているため、子供たちは体調を崩しがちで、インフルエンザに罹患する子もいます。学校においても子供たちが元気に過ごすことができるよう、体調管理に努め、毎日を大切に過ごしていきたいと思います。

学校教育目標に向けて⑨「自分からあいさつする」

1月からの生活目標は、「自分からあいさつする」としています。あいさつは心をつなぐものとされてきていますが、「親しき中にも礼儀あり」という言葉があるように、あいさつも相手を大事にする言葉であると考えています。

各学級において、担任と子供たちとあいさつについて考えました。なぜあいさつをするのか、あいさつをし合うとどんな気持ちになるのか、など改めて考えてみました。

どんな場でできるかななども考えてみんなで取り組む学級もあります。学級の友達には、朝教室に入るときに元気にあいさつする、一日の中ではじめて会う人に自分からあいさつする、など具体的な取組をしているところです。学校だけでなく、家庭や地域などにもたくさんのあいさつを広げていきたいと思います。



【 防災設備について知る 】

本校では、防災訓練をはじめ防犯訓練など、身を守るための訓練を計画的に行っています。シェイクアウト訓練は、年10回ほど行っており、授業中だけでなく休み時間などいろいろな想定で実施しています。先日も中休み中に訓練の放送を流したところ、廊下や階段にいてもできるだけ安全な場所に素早く動き、頭を守る姿勢を取ることができています。

3年生の社会では、地域の安全を守る活動について学習しています。先日、消防署を見学し、消防車を見せていただいたり、消防署のしくみを聞いたりしてきました。わからないことを調べ、言葉や絵にまとめています。

学校の中にも消防設備があることがわかり、校内を調べてまわりました。なぜその場所にその設備があるのかを考えていました。





【酒匂・小八幡かるたから地域を知る】

酒匂・小八幡地区まちづくり委員会の文化・教育分科会のみなさまから、かるたを8セットいただきました。このかるたは、約3年半かけてつくられたものだそうです。読み札の句は、分科会の方々に熟考され、また絵札のイラストは、住民



や児童絵画教室、酒匂中学校の美術部の生徒などで作成されました。

絵札の「あ」は、「あかくさくはな 富士見小」です。早速、2年生がこのかるたを使って学習しました。「あ」の絵札は絶対にとろうと真剣でした。また、担任の先生が絵札の場所について確認したり補足説明をしたりしながら行ったため、いろいろな学習に結びつく時間になりました。3年生になると、社会や総合的な学習の時間という学習があります。関連させながら楽しく学習していくことができそうです。



【インクルーシブ教育】

インクルーシブ教育は、国や県、そして小田原市でも推進している教育です。小田原市では「多様な子供たちが同じ場で学び合う学校・その時点での教育的ニーズに最も的確に応える学びの場」としています。

子供たちへの理解を深めようと、小田原支援学校の先生をお招きし、インクルーシブ教育について演習を取り入れながらお

話を伺いました。今回は、スケジュールの都合から1・3・4・6年生を対象に行いました。

4年生では、「平等」と「公平」という言葉から考えました。身長の違いのある3人が、壁の向こうにあるものを全員が見たい場合、どのような支援がよいか、その支援方法の違いを考えてみました。その場合、同じ高さの台を同じ数ずつ与えるのが「平等」、壁の高さを超えて見ることができるように台の数をかえて与えるのが「公平」です。授業の最後にまとめとして考えたことは、「一人一人は違って当たり前。得意なことも苦手なことも違う。その人がどうしたら一緒にできるかを考えることが大事。」小さなことから共生社会に向けた取り組みをしていきます。



関わり

昔のおもちゃ体験（1年生）

1年生では、生活科で昔遊びをしてみようという学習があります。

地域の方をお招きし、昔のおもちゃの遊び方を教えていただき、体験してみることにしました。昔のおもちゃとは、けん玉・あやとり・おはじき・お手玉・竹とんぼ・こま・羽根つき・的あてなどです。保護者も一緒に参加しました。

子供たちが一番難しそうにしていたのが、こまです。紐のくくりつけ方、くくりつけた後の手の持ち方、そして、こまを回すときのタイミングや手の放し方など、全てがうまくいかないとこまは回りませんでした。

何回か練習していくと回るようになり、いろいろな感覚をつかうことで回ることがわかりました。

